

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	無期限（設定日：2018年5月16日）
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託（リート）等に分散投資します。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスド・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て） 原則として、日本国内の取引所に上場している投資信託証券（ETF） マネー・トラスト・マザーファンド 円貨建て短期公社債および短期金融商品等
当ファンドの運用方法	■世界各国の株式、債券および不動産投資信託（リート）等に分散投資します。 ■中長期的な目標リターンとして短期金利相当分＋年3%程度を目指して資産配分を行います。 ■投資対象とする外国投資信託の運用は、ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッドが行います。
組入制限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	■年2回（原則として毎年3月および9月の15日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みません。）等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 （基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。）

# ライフ・ジャーニー (かしこく育てるコース)

## 【愛称:最高の人生の描き方】

### 【運用報告書(全体版)】

(2018年9月19日から2019年3月15日まで)

第 2 期

決算日 2019年3月15日

### 受益者の皆さまへ

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託（リート）等に分散投資します。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

三井住友アセットマネジメント株式会社は、関係当局の認可等を得ることを前提に、2019年4月1日に大和住銀投信投資顧問株式会社と合併し、商号を三井住友DSアセットマネジメント株式会社に変更する予定です。



三井住友アセットマネジメント

〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1 <http://www.smam-jp.com>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま サービス部 ☎0120-88-2976

受付時間：営業日の午前9時～午後5時

お取引状況等はこちらの販売会社へお問い合わせください。

## ■ 設定以来の運用実績

決算期	基準価額			債券組入比率	投資信託証券組入比率	純資産総額
	(分配落)	税込分配金	期中騰落率			
(設定日) 2018年5月16日	円 10,000	円 —	% —	% —	% —	百万円 3,626
1期(2018年9月18日)	10,039	0	0.4	0.0	98.8	8,652
2期(2019年3月15日)	9,845	0	△1.9	0.0	99.0	9,116

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## ■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		債券組入比率	投資信託証券組入比率
		騰落率		
(期首) 2018年9月18日	円 10,039	% —	% 0.0	% 98.8
9月末	10,204	1.6	0.0	99.0
10月末	9,552	△4.9	0.0	98.8
11月末	9,762	△2.8	0.0	99.0
12月末	9,146	△8.9	0.0	99.4
2019年1月末	9,474	△5.6	0.0	99.6
2月末	9,858	△1.8	0.0	99.4
(期末) 2019年3月15日	9,845	△1.9	0.0	99.0

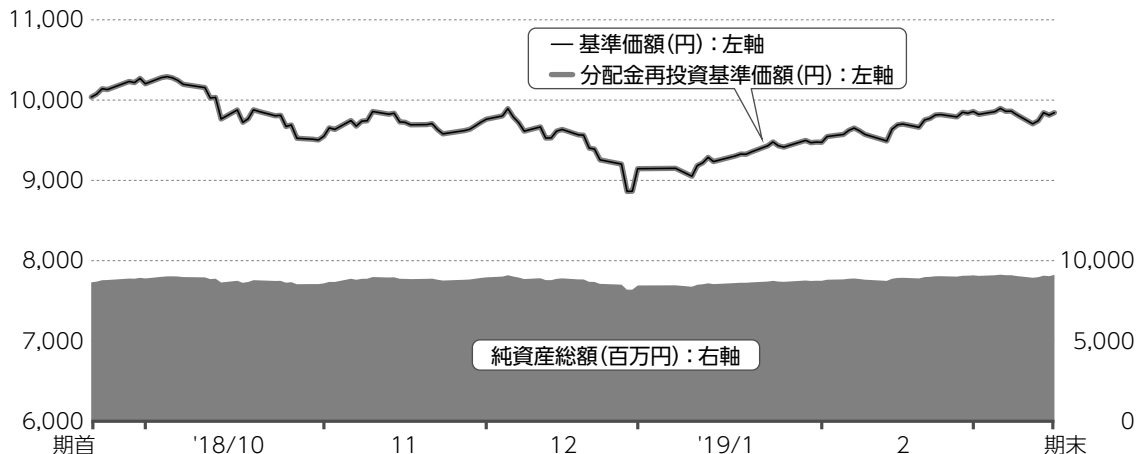
※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

# 1 運用経過

基準価額等の推移について(2018年9月19日から2019年3月15日まで)

## 基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	10,039円
期末	9,845円 (分配金0円(税引前)込み)
騰落率	-1.9% (分配金再投資ベース)

## 分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

**基準価額の主な変動要因(2018年9月19日から2019年3月15日まで)**

当ファンドは、主として上場投資信託(E T F)への投資を通じて世界各国の株式、債券および不動産投資信託(リート)等に分散投資を行う外国投資信託証券<sup>\*</sup>を主要投資対象としました。

なお、世界の債券に投資するE T Fについては、為替ヘッジ付きのものを投資対象としています。  
<sup>\*</sup>外国投資信託の運用は、ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッドが行います。

**上昇要因**

- 外国債券が上昇したこと
- 米国および日本のリートが上昇したこと
- 新興国株式が上昇したこと

**下落要因**

- 日本株式が下落したこと
- 先進国株式が下落したこと
- ユーロが円に対して下落したこと

**組入れファンドの状況**

組入れファンド	投資資産	期末組入比率
ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ ブラックロック・エンハンスド・ストラテジック・アロケーション・ ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)	世界各国の 株式、債券、リート等	99.0%
マネー・トラスト・マザーファンド	短期金融資産	0.0%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

投資環境について（2018年9月19日から2019年3月15日まで）

株式市場においては、日本株式・先進国株式が下落した一方で、新興国株式が上昇しました。債券市場においては米国長期国債、投資適格社債が上昇しました。リート市場においては、日本リート、米国リートが上昇しました。米ドル・円は横ばい、ユーロ・円はユーロが下落しました。

## 株式市場

### ●日本株式、先進国株式

日本株式市場および先進国株式市場は、下落しました。期初は、堅調な米国経済が世界経済の拡大を後押しし、上昇しました。10月から年末にかけては、米中貿易戦争の激化、F R B（米連邦準備制度理事会）による量的引締め継続観測、米国の政治的な不透明感の高まり等、多くの要因によりグローバル市場のボラティリティ（価格変動性）が大きく上昇する中、軟調となりました。2019年初以降は、堅調な米国企業決算や、米中貿易交渉進展への期待、世界的に金融政策当局の政策姿勢が従来よりも緩和的なものへと変化したこと等を背景に、期末まで上昇しました。

当期のT O P I X（東証株価指数、配当込み）は、8.0%下落し、M S C I コクサイ インデックス（配当込み、米ドルベース）は1.5%下落しました。

### ●新興国株式

新興国株式市場は、上昇しました。10月から年末にかけて先進国株式市場と同様に下

落しました。しかし、前期までの下落幅が大きかったこともあり下落幅は限定的で、2019年初以降の上昇を受けて、通期ではプラスとなりました。米国金利が11月以降に低下したことで新興国圏からの資金流出懸念が薄らいだことも、下支え要因になったとみられます。

当期のM S C I エマージング・マーケット・インデックス（米ドルベース）は3.1%上昇しました。

## 債券市場

米国長期国債市場は、上昇しました。株価の急落や地政学リスクへの懸念、F R Bの金融政策変更観測等が背景となりました。

米国投資適格社債市場および米国ハイイールド社債市場は、上昇しました。年末にかけて株価の大幅下落などを背景に大きく下落する場面がありましたが、2019年初以降は株価回復や堅調な企業決算、国債利回りの低下等が上昇の背景となりました。

当期の米国10年国債利回りは、期首2.99%から期末は2.63%に低下（価格は上

昇)しました。

---

## リート市場

リート市場は、日本・米国ともに上昇しました。金利が低下したこと等を受けて、金利裁定資産としてのリートが上昇しました。

当期の東証REIT指数(配当込み)は、9.1%上昇、MSCI米国REITインデックス(米ドルベース)は2.7%上昇しました。

---

## 為替市場

米ドル・円は、ほぼ横ばいとなりました。

株価の下落を受けて12月に大きく米ドル安が進みましたが、年明け以降は金融当局の緩和的な姿勢への転換を好感して株価が上昇に転じたことなどを受け、期末まで米ドルが上昇しました。

ユーロ・円は、軟調な欧州経済や欧州における地政学リスク懸念等を背景に、ユーロが下落しました。

当期の米ドル・円は、期首111円83銭から期末111円94銭と横ばいとなり、ユーロ・円は期首130円51銭から期末126円50銭と4円01銭のユーロ安・円高となりました。

---

## ポートフォリオについて(2018年9月19日から2019年3月15日まで)

---

### 当ファンド

「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)」を高位に組み入れて運用を行いました。

---

### ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)

#### ●資産配分

年率10%程度のリスク量を目標に、各国の指数に連動する債券、株式といった伝統的資産に加え、ハイイールド社債、新興国株式、内外リートを加え、為替リスクも考慮したうえでポートフォリオ全体のリスク分散を図り、長期に安定したパフォーマンスを提供することを目標として組入れを行いました。

組み入れたETFは、いずれも各資産クラスを代表する指数に概ね連動するもので、グ

グローバルな市場に分散して投資を行うという、当ファンドの目的に適しています。また、各資産への配分比率は、短期的な市場変動の際にも一定の対応力があると思われる比率を勘案したうえで決定しています。

期初は、国内外株式を6割程度組み入れることで今後の経済成長見通しを背景にしたリターンの獲得を図る一方で、市場の変動性の影響を抑制することを考慮して、外国債券を3割程度組み入れました。国内株式では市場混乱時における安定性を考慮し、最小分散株式を1割程度組み入れました。外国債券では、緩やかな経済成長に伴う金利上昇に配慮して、米国国債だけでなく、投資適格社債、ハイイールド社債に分散投資を行いました。なお、ポートフォリオの収益源を多様化するため、国内外のリートへ1割程度投資しました。

その後、各資産における期待収益率・リスク等の見直し変化に基づき、12月と3月に

リバランス(資産配分比率の変更)しました。12月のリバランスでは、相場は急落していたものの米国中心に堅調な実体経済が確認されたこと等から、株式へのウェイト配分を維持しつつ、市場混乱時における安定性が高いと考えられる最小分散株式のウェイトを若干高めました。また中期的に金利上昇(債券価格は下落)が見込まれる債券のウェイトは引き続き抑制しました。3月のリバランスでは、年初以降の株価急騰をうけて、短期的に株価上昇余地が縮小しているとの判断から、株式のウェイトを若干削減する一方で、債券系資産のウェイトを引き上げました。

---

## マネー・トラスト・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

### ベンチマークとの差異について(2018年9月19日から2019年3月15日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について(2018年9月19日から2019年3月15日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第2期
当期分配金	—
(対基準価額比率)	(—%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	44

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。  
 ※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

当期の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りといたしました。

なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

## 2 今後の運用方針

### 当ファンド

引き続き、「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)」の投資比率を高位に保ちます。

### ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)

一部地域(欧州等)では景気後退の兆しが見られる一方、米国等の実体経済は減速しているものの依然として堅調であり、引き続き株

式等のリスク性資産が評価されやすい展開を見込んでいます。

債券市場では米国の利上げが遠のいたとの見方が広がっていますが、堅調な経済状況が継続した場合は、再び金利上昇の可能性が高まると考えられます。

新興国においては、2018年後半以降、相対的に堅調推移しているものの、短期的には中国における財政政策・金融政策等の影響を受けやすいと考えられます。

リスクとしては、金融政策に対する当局の方針と市場参加者の期待との乖離に注意する必要があると考えており、特に市場コンセンサス(共通認識)に反して金利が急激に上昇する様な局面では、リスク性資産全般が大幅に調整する点に留意しております。

ポートフォリオでは、主要国の金融政策に



かかる市場コンセンサスの変化等を意識しつつリスク量の管理を行う計画です。当面の運用方針としては、現状のリスクレベルを維持する方針です。

---

### マネー・トラスト・マザーファンド

引き続き、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行います。

## 3 お知らせ

### 約款変更について

該当事項はございません。

## ■ 1万口当たりの費用明細(2018年9月19日から2019年3月15日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	52円	0.542%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数)
(投信会社)	(15)	(0.158)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(36)	(0.369)	販売会社：交付運用報告書等各种資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.016)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.003	その他費用＝期中のその他費用/期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他)	(0)	(0.000)	その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	52	0.545	

期中の平均基準価額は9,666円です。

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

## ■ 当期中の売買及び取引の状況(2018年9月19日から2019年3月15日まで)

### 投資信託証券

		買 付		売 付	
		口 数	買 付 額	口 数	売 付 額
国内	ブラックロック・グローバル・インベストメント・ トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ ストラテジック・アロケーション・ファンド (アキュムレーティング・クラス、円建て)	69,912	688,000	9,603	94,300
	合計	69,912	688,000	9,603	94,300

※金額は受渡し代金。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

## ■ 利害関係人との取引状況等(2018年9月19日から2019年3月15日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況  
(2018年9月19日から2019年3月15日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細(2019年3月15日現在)

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	期首(前期末)	期 末		
	口 数	口 数	評 価 額	組 入 比 率
ブラックロック・グローバル・インベストメント・ トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ ストラテジック・アロケーション・ファンド (アキュムレーティング・クラス、円建て)	848,589	908,897	9,023,500 千円	99.0 %
合 計	848,589	908,897	9,023,500	99.0

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

(2) 親投資信託残高

種 類	期首(前期末)	期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
マネー・トラスト・マザーファンド	千口 2,543	千口 2,543	千円 2,539

※マネー・トラスト・マザーファンドの期末の受益権総口数は10,360千口です。

※単位未満は切捨て。

■ 投資信託財産の構成

(2019年3月15日現在)

項 目	期	末
	評 価 額	比 率
投 資 信 託 受 益 証 券	9,023,500 千円	97.9 %
マ ネ ー ・ ト ラ ス ト ・ マ ザ ー フ ァ ン ド	2,539	0.0
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	188,583	2.1
投 資 信 託 財 産 総 額	9,214,622	100.0

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

## ■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2019年3月15日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	9,214,622,907円
コール・ローン等	188,583,138
投資信託受益証券(評価額)	9,023,500,534
マネー・トラスト・マザーファンド(評価額)	2,539,235
(B) 負 債	98,554,470
未 払 金	47,700,000
未 払 解 約 金	2,906,434
未 払 信 託 報 酬	47,716,465
そ の 他 未 払 費 用	231,571
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	9,116,068,437
元 本	9,259,180,998
次 期 繰 越 損 益 金	△ 143,112,561
(D) 受 益 権 総 口 数	9,259,180,998口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C/D)	9,845円

※当期における期首元本額8,618,524,856円、期中追加設定元本額811,104,046円、期中一部解約元本額170,447,904円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■ 分配金のお知らせ

1 万 口 当 た り 分 配 金 (税 引 前)	当 期
	－円

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

## ■ 損益の状況

(自2018年9月19日 至2019年3月15日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 31,813円
支 払 利 息	△ 31,813
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 114,158,288
売 買 損 益	6,496,547
売 買 損 益	△ 120,654,835
(C) 信 託 報 酬 等	△ 47,968,009
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	△ 162,158,110
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	37,496,708
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 18,451,159
( 配 当 等 相 当 額 )	( 3,536,141)
( 売 買 損 益 相 当 額 )	(△ 21,987,300)
(G) 計 (D + E + F)	△ 143,112,561
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (G + H)	△ 143,112,561
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 18,451,159
( 配 当 等 相 当 額 )	( 3,536,220)
( 売 買 損 益 相 当 額 )	(△ 21,987,379)
分 配 準 備 積 立 金	37,538,253
繰 越 損 益 金	△ 162,199,655

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※期末における、費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(3,536,220円)および分配準備積立金(37,538,253円)より分配可能額は41,074,473円(1万口当たり44円)ですが、分配は行っておりません。

## ■ 組入れ投資信託証券の内容

### 投資信託証券の概要

ファンド名	ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）
形態	ケイマン籍外国投資信託（円建て）
主要投資対象	主に、日本国内の取引所に上場している投資信託証券（ETF）
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主にブラックロック・グループが運用するETFであるiシェアーズを通じて様々な資産への投資を行い、値上がり益および利子・配当等収益からなるトータルリターンを獲得を目指します。</li> <li>・ファンドの想定リスクが大きくなる場合は、資産配分を見直し、現金等の保有比率を高める場合があります。</li> </ul>
ベンチマーク	ありません。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有価証券の空売りは行いません。</li> <li>・純資産総額の10%を超える借入れを行いません。</li> </ul>
決算日	毎年12月の最終営業日
分配方針	分配を行わない方針です。
運用報酬等	<p>純資産総額に対して年0.15%</p> <p>副投資顧問会社に対する報酬は、投資顧問会社の運用報酬より支払われます。ファンドが投資するETFにおいても運用管理費用がかかります。</p>
管理およびその他の費用	<p>管理事務報酬：純資産総額に対して最大年0.04% （ただし、4万米ドルの年間最低報酬が適用されます。）</p> <p>名義書換事務代行報酬：純資産総額に対して年0.01%</p> <p>受託報酬：年間1万米ドル</p> <p>その他に、取引関連費用、ファンドの設立費用、法務費用、監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。これらの費用・手数料については、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
投資顧問会社	ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッド
副投資顧問会社	ブラックロック・ジャパン株式会社
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

主要な組入れファンドである「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）」の直近の情報が入手できないため、記載すべきデータはございません。

# マネー・トラスト・マザーファンド

第3期（2017年10月13日から2018年10月12日まで）

信託期間	無期限（設定日：2016年1月29日）
運用方針	■主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

## ■ 設定以来の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		債 券 組 入 率	純 資 産 額
		期 騰 落	中 率		
（設 定 日） 2016年1月29日	円 10,000		% —	% —	百万円 10
1期（2016年10月12日）	10,001		0.0	80.4	10
2期（2017年10月12日）	9,992		△0.1	90.6	10
3期（2018年10月12日）	9,986		△0.1	68.2	10

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## ■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 券 組 入 率
		騰 落	率	
（期 首） 2017年10月12日	円 9,992		% —	% 90.6
10月末	9,992		0.0	90.3
11月末	9,991		△0.0	90.2
12月末	9,991		△0.0	90.1
2018年1月末	9,991		△0.0	90.0
2月末	9,990		△0.0	80.3
3月末	9,989		△0.0	80.4
4月末	9,988		△0.0	80.6
5月末	9,988		△0.0	80.3
6月末	9,988		△0.0	80.2
7月末	9,987		△0.1	70.5
8月末	9,987		△0.1	68.3
9月末	9,986		△0.1	68.3
（期 末） 2018年10月12日	9,986		△0.1	68.2

※騰落率は期首比です。

# 1 運用経過

## ▶ 基準価額等の推移について（2017年10月13日から2018年10月12日まで）

### 基準価額等の推移



期首	9,992円
期末	9,986円
騰落率	-0.1%

## ▶ 基準価額の主な変動要因（2017年10月13日から2018年10月12日まで）

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

### 下落要因

- ・日銀によるマイナス金利政策が継続され、主要投資対象である短期公社債や短期金融商品におけるマイナス利回りが続いたこと

## ▶ 投資環境について（2017年10月13日から2018年10月12日まで）

当期の短期金利は低下しました。

物価上昇率の伸びが緩慢であったことから、日銀は「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」政策を維持し、日銀当座預金の一部へのマイナス金利付利を継続しました。また、日銀は需給動向を勘案しながら短期国債の買入れを調整したことから、短期国債利回りはレンジ推移となりましたが、2018年10月以降は年末越えの運用ニーズの高まりから利回りは急低下しました。

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、日銀当座預金付利金利である-0.10%程度を上限に、マイナス圏で推移しました。国庫短期証券3ヵ月物利回りは期首-0.171%に対し、期末には-0.311%まで低下しました。

▶ **ポートフォリオについて (2017年10月13日から2018年10月12日まで)**

短期金利は低位での推移が継続するとの見通しから、残存0年から1年3ヵ月の円建て公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを継続しました。また、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮しながら、短期公社債の組入れを行いました。

▶ **ベンチマークとの差異について (2017年10月13日から2018年10月12日まで)**

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

## 2 今後の運用方針

日銀によるマイナス金利政策が継続され、短期国債利回りやコールローン翌日物金利など、主要投資対象である短期公社債および短期金融商品の利回りは引き続きマイナスで推移しています。

残存0年から1年3ヵ月の公社債や短期金融商品で利回りのマイナス幅が小さい投資対象を選定し、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮して運用を行います。

■ **1万口当たりの費用明細 (2017年10月13日から2018年10月12日まで)**

項 目	金 額	比 率	項 目 の 概 要
(a) そ の 他 費 用 (そ の 他)	0円 (0)	0.004% (0.004)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 そ の 他：信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	0	0.004	

期中の平均基準価額は9,989円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ **当期中の売買及び取引の状況 (2017年10月13日から2018年10月12日まで)**

公社債

		買 付 額	売 付 額
		千円	千円
国内	特 殊 債 券	7,107	— (9,000)

※金額は受渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※（ ）内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。



## ■ 利害関係人との取引状況等 (2017年10月13日から2018年10月12日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ■ 組入れ資産の明細 (2018年10月12日現在)

公社債

A 債券種類別開示

国内（邦貨建）公社債

区 分	期				末		
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBBB格以下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
					5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
	千円	千円	%	%	%	%	%
特 殊 債 券 (除 く 金 融 債)	7,000 (7,000)	7,059 (7,059)	68.2 (68.2)	— (—)	— (—)	— (—)	68.2 (68.2)
合 計	7,000 (7,000)	7,059 (7,059)	68.2 (68.2)	— (—)	— (—)	— (—)	68.2 (68.2)

※（ ）内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※—印は組入れなし。

B 個別銘柄開示

国内（邦貨建）公社債

種 類	銘 柄	期		末	
		利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
		%	千円	千円	
特 殊 債 券 (除 く 金 融 債)	第15回 政府保証東日本高速道路債券	1.3	3,000	3,014	2019/2/25
	第8回 政府保証地方公営企業等金融機構債券	1.5	2,000	2,018	2019/5/24
	第3回 政府保証地方公共団体金融機構債券	1.5	2,000	2,025	2019/8/16
合 計		—	7,000	7,059	—

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

## ■ 投資信託財産の構成

(2018年10月12日現在)

項 目	期		末	
	評 価 額	比 率	評 価 額	比 率
	千円	%		
公 社 債	7,059	68.2		
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	3,286	31.8		
投 資 信 託 財 産 総 額	10,345	100.0		

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

## ■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2018年10月12日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	10,345,828円
コーポレート債等	3,269,920
公社債(評価額)	7,059,630
未 収 利 息	16,278
(B) 負 債	63
未 払 利 息	9
その他未払費用	54
(C) 純資産総額(A-B)	10,345,765
元 本	10,360,467
次期繰越損益金	△ 14,702
(D) 受益権総口数	10,360,467口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,986円

※当期における期首元本額10,030,003円、期中追加設定元本額6,957,730円、期中一部解約元本額6,627,266円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

ヘルスケア・リート・プラス	3,392,751円
米国・地方公共事業債ファンド(為替ヘッジあり)	50,056円
米国・地方公共事業債ファンド(為替ヘッジなし)	28,023円
世界コーポレート・ハイブリッド証券ファンド2017-03	871,211円
ライフ・ジャーニー(かしこく育てるコース)	2,543,560円
ライフ・ジャーニー(かしこく使うコース)	2,453,434円
ライフ・ジャーニー(充実して楽しむコース)	721,009円
人生100年時代・世界分散ファンド(資産成長型)	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド(3%目標受取型)	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド(6%目標受取型)	100,141円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■ 損益の状況

(自2017年10月13日 至2018年10月12日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	121,415円
受 取 利 息	122,740
支 払 利 息	△ 1,325
(B) 有価証券売買損益	△127,580
売 買 損 益	△127,580
(C) 信託報酬等	△ 425
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 6,590
(E) 前期繰越損益金	△ 7,652
(F) 追加信託差損益金	△ 9,730
(G) 解約差損益金	9,270
(H) 計 (D+E+F+G)	△ 14,702
次期繰越損益金(H)	△ 14,702

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※信託報酬等には、保管費用等を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

## ■ お知らせ

### <約款変更について>

受益者に対してする公告を電子公告の方法によるものとするため、所要の変更を行いました。

(適用日：2018年2月1日)